

第4回大学地域連携強化プラン懇話会

(仮称) アーバンデザインセンター
びわこ・くさつ (UDCBK) 事業について

1

平成28年6月1日

草津市総合政策部草津未来研究所

シート右上のマークについて

R数

過去のシートを改定したものの
(数字は懇話会の回数)

数字

過去のシートの再掲
(数字は懇話会の回数)

全体の流れ

(仮称) UDCBK開設について

4

(仮称) UDCBKの体制について

16

(仮称) UDCBKの概要について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(仮称) UDCBKの今後の予定について

50

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

54

前回懇話会からの主な変更点

No	前 回	今 回
1	草津版アーバンデザインセンター (UDC)	(仮称) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ (UDCBK)
2	平成28年度は市の事業として実施する	新たな拠点に移転するまで市の事業として運営する
3	平成29年度より一般社団法人として運営する	新たな拠点移転時に一般社団法人として運営する
4	平成32年度を目途に新たな拠点に移転する	平成30年度を目標に新たな拠点に移転する

(仮称) UD CBK 運営基本方針

- 新たな拠点に移転するまでの間、草津未来研究所事業（市の事業）として（仮称）アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UD CBK）を運営する。
- 新たな拠点に移転するまでに一般社団法人等法人化を目指す。
- 新たな拠点に移転後、法人はUD C 事業等の経営を行う。

(仮称) UDCBK開設・運営スケジュール

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
場 所	市民交流プラザ内（仮設）		新拠点での運営予定	
運 営	開設準備	未来研究所事業として運営	一般社団法人等による運営	
組 織	大学地域連携強化プラン懇話会	UDCBK運営委員会	新法人に基づく体制に移行	
		UDCBK運営スタッフ		

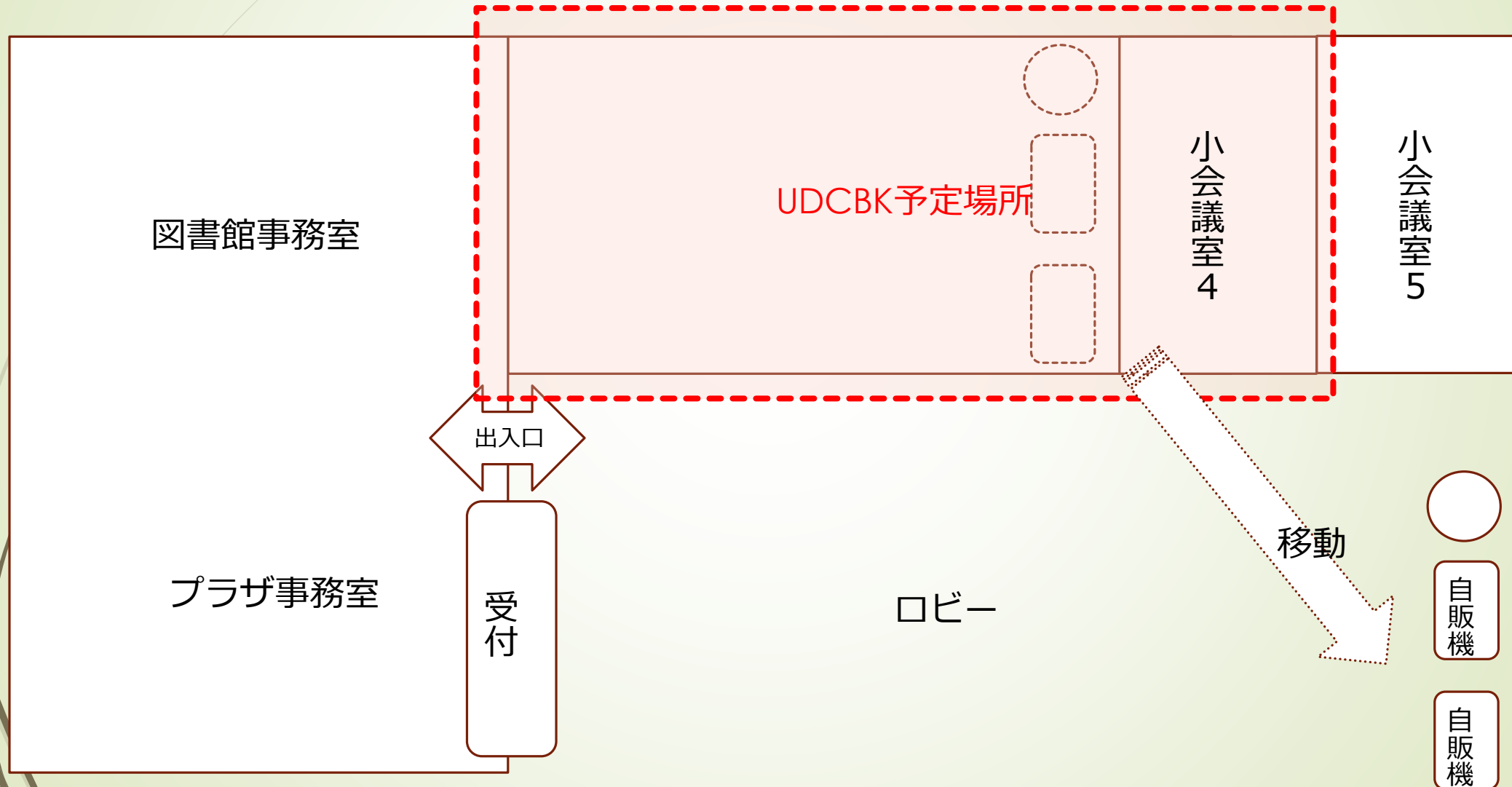
(仮称) UDCCBKの将来構想 (案)

	平成28年10月	平成30年度	平成32年度	将来構想
活動地域	南草津駅周辺	南草津駅周辺	草津市内全域	湖南地域
設立年月	2016年10月	2018年4月		
組織形態	任意団体	一般社団法人	一般社団法人	一般社団法人
公	草津市	草津市	草津市、滋賀県	草津市、周辺市、滋賀県
民	パナソニック社 滋賀銀行 草津商工会議所 草津市コミュニティ事業団 まちづくり協議会	+a	+a	+a
学	立命館大学、滋賀大学、 京都橘大学、成安造形大学 滋賀県立大学	+ 龍谷大学等	+a	+a
スタッフ	市職員1名 非常駐2名 事務1名	常駐4名 (市職員含む) 非常駐6名 受付1名 事務1名	常駐4名 (市職員含む) 非常駐6名 受付1名 事務1名	常駐6名 (市職員含む) 非常駐4名 受付1名 事務1名
施設	仮事務所で 未来研事業として運営	南草津駅前に新拠点移設 (他機能併設)	—	周辺市等にサテライト

(仮称) UDCCBKの開室場所・時間について (案)

- ▶ 開室場所
 - ▶ 南草津駅前フェリエ5階の市民交流プラザ内
- ▶ 開室予定日時
 - ▶ 平成28年10月15日(土) 午前10時
- ▶ 開室曜日・時間
 - ▶ 火曜から土曜 (日・月・祝(祝日が月曜の場合は火曜日休室))
 - ▶ 午前10時から午後6時45分

(仮称) UDCBKの設置予定場所



間仕切りについて

利用可能曜日や時間帯が市民交流プラザ、南図書館とは異なること、南図書館と隣接していること、から
容易に人が侵入できないようにする
可能な限り遮音性を確保する
施錠可能とする
等を満たすため、ハイパーテーション（2100mm）にて間仕切る。



レイアウト (案)

オープンスペース



クローズドスペース
(小会議室 4)



相談室機能

倉庫機能



調査研究機能

執務室機能

(仮称) UDCCBKの利用について (案)

- ▶ (仮称) UDCCBK及び構成団体が実施する調査研究、社会実験等の打ち合わせ利用
- ▶ 構成団体・協力団体の南草津駅前出張所または活動拠点として様々なサービスの提供に利用
- ▶ 構成団体・協力団体のイベント等（15人程度）での利用
 - ▶ 15名以上の場合は隣接の市民交流プラザ会議室を利用
- ▶ 環境月間や児童虐待防止月間などの啓発のための各種展示
- ▶ 未利用時はオープンスペースとして誰でも利用可能

新拠点を検討する上での条件①

(赤字強調は今回)

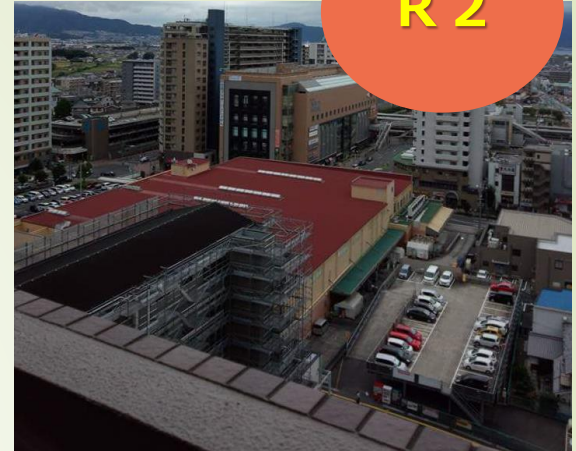
外観 (周辺環境)

- 南草津駅前の人通りの多い道路に面したビルの1階が望ましい
(地図の枠内)
- 公園や広場などの近くが望ましい
- 建物はガラス張りで、外から内部が見える

内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計する
- 机や椅子は自由に移動できる
- ホワイトボードやプロジェクターなどを常備する
- 飲食の持ち込みを可とする (小さなカフェ機能)
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねる
- 子育て世帯が多い地域のため、プレイルーム的な機能を持たせる
- バス待ちなど学生や社会人の待機場所としても活用する
- 無線WiFi、PC及びスマホ用電源を整備する

新拠点を検討する上での条件②



全体の流れ

(仮称) UDCBK開設について

4

(仮称) UDCBKの体制について

16

(仮称) UDCBKの概要について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(仮称) UDCBKの今後の予定について

50

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

54

(仮称) UDCBKの組織について

平成27年9月

①大学地域連携強化プラン懇話会

平成28年10月

② (仮称) UDCBK
運営委員会

平成30年度

④一般社団法人等法人

③ (仮称) UDCBK運営スタッフ

①大学地域連携強化プラン懇話会

- 平成28年4月から9月末まで現在の懇話会を継続
- 主な協議事項
 - 10月以降に設置する「（仮称）アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）運営委員会」の役割と構成団体について
 - （仮称）UDCBK実施プログラムについて
 - パンフレット等の作成助言
 - 10月15日のオープンイベントの企画
 - 愛称の決定について
 - オープン前の広報戦略等について

②（仮称）UDCBK運営委員会

- 平成28年10月のアーバンデザインセンター開設と同時に任意団体「（仮称）UDCBK運営委員会」を設置
 - 運営委員会に加盟している法人は構成団体という。またアーバンデザインセンターのプロジェクト等実施事業毎に連携・協力する団体を協力団体という。
- （仮称）UDCBK運営委員会はアーバンデザインセンター事業の下記の運営全体の基本事項について市に助言
 - 運営全体の基本事項
 - 年間スケジュール・年間実施プログラムへの助言
 - UDCBK主催事業、構成団体主催事業、および他団体との協働事業等の提案
 - 情報発信等広報戦略について
 - UDCBK事業の評価
 - 平成30年度以降に運営委員会をベースに草津市を含む各種補助金・助成金・委託事業等の契約行為の受け皿として一般社団法人等法人化の検討

③（仮称）UDCBK運営スタッフ

- アーバンデザインセンター事業を迅速、且つ円滑に行うため、通常の執行組織として、（仮称）UDCBK運営スタッフを置き、運営委員会の方針に従い、現場で判断
- スタッフには、市の職員1名と臨時職員を専従、市の委託研究員を非常勤とし、構成団体および協力団体の南草津事務所として特定曜日の特定時間等に職員の派遣をお願いし、専従職員の労働条件を確保しつつ常時2名以上の常勤体制を確保
 - その他構成団体と協力団体の主催事業、および共催事業時には一定期間（企画～準備～開催～振り返り）拠点として利用時に（仮称）UDCBK運営スタッフ業務をお願いする（曜日や時間を特定いただく）。
 - 後述のアーバンデザインスクール修了者が企画するセミナー等企画運営の拠点として利用時に（仮称）UDCBK運営スタッフ業務をお願いする（曜日や時間を特定いただく）

③ (仮称) UD CBK の運営体制 (案)

(仮称) アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

(監理運営) 運営委員会

構成団体

委員長
(大学関係者)

副委員長
(2名)
・草津市副市長
・(仮称) UD CBK
センター長

委員

計
15名

- ・まちづくり協議会連合会 (1名)
- ・草津商工会議所 (1名)
- ・パナソニック アプライアンス社 (1名)
- ・滋賀銀行 (1名)
- ・中間支援NPO (1名)

民

- ・立命館大学等 (4名)

学

- ・草津市 (1名)
- ・草津市コミュニティ事業団 (1名)

公

(仮称) UD CBK 運営スタッフ) = 連携のコア

センター長

各プログラムを統括し、全体の
アーバンデザインについて指示
調整等を行う

副センター長

プロジェクトアドバイザー

プログラムごとに専門
的観点から指導・助言
を行う。

シニアディレクター

建築、公共空間、アート、祭り、
スポーツ、産業技術等、各担当
における企画・調整・連携を図
りながら、事業執行を担う。

ディレクター

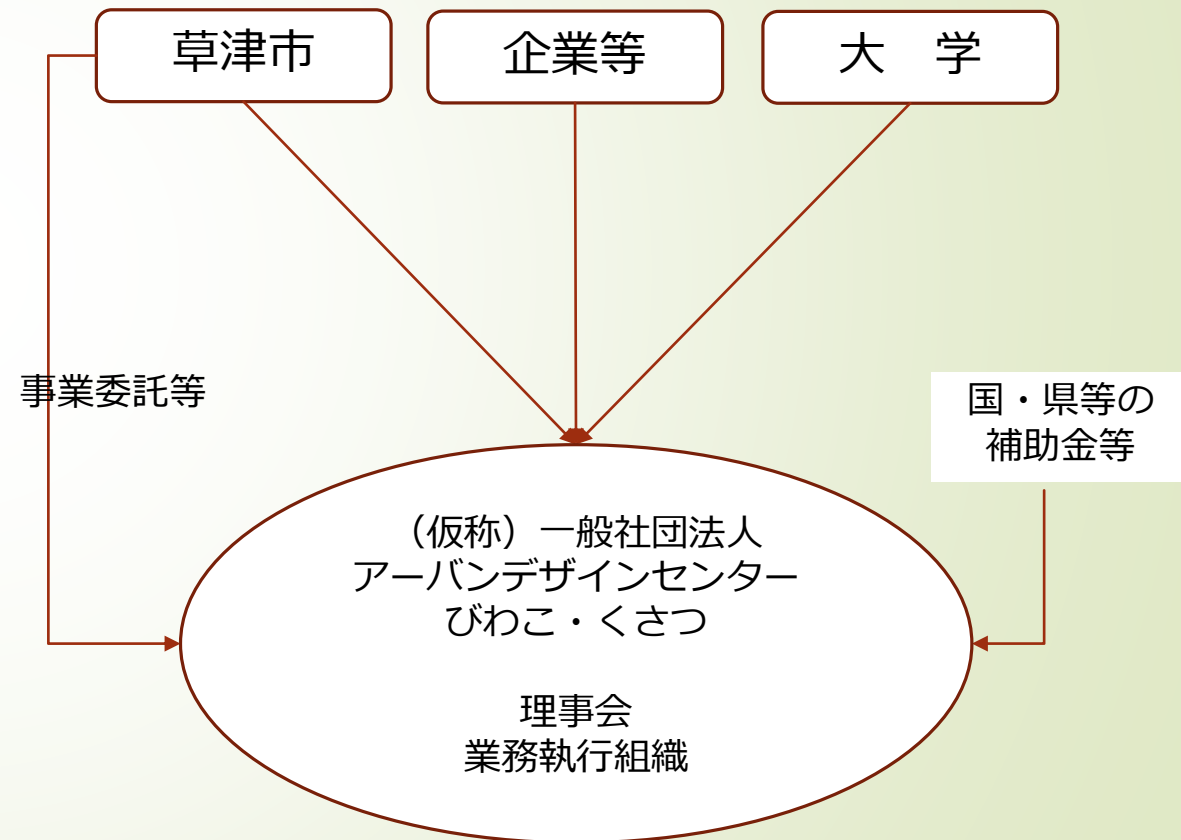
運営サポーター

構成団体および協力団体所属員、
アーバンデザインスクール修了
者の拠点として利用

各プログラム (セミナー、ワークショップ、社会実験等)

④一般社団法人による運営イメージ（案）

- （仮称）一般社団法人アーバンデザインセンターびわこ・くさつを設置し、運営方針等を決議する。
- 社団法人構成団体より活動に必要な施設や物品、人員を持ち寄り、アーバンデザインセンターびわこ・くさつを運営する。
- プログラムごとに協力団体を構成する。
- 市等の業務受託、各種助成金・補助金の獲得を目指す。



全体の流れ

(仮称) UDCBK開設について

4

(仮称) UDCBKの体制について

16

(仮称) UDCBKの概要について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(仮称) UDCBKの今後の予定について

50

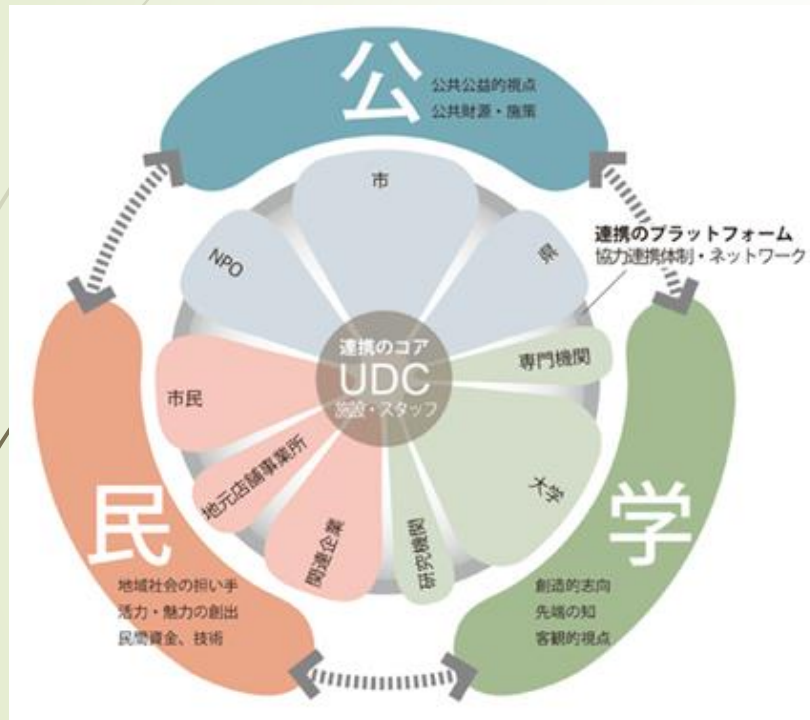
(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

54

アーバンデザインとは？

- ▶ 都市空間（アーバンスペース）は、多くの建築物、道路、樹木、街灯やベンチなどによって構成されています。また、市街地だけでなく、その周辺の田園や緑地も、都市空間を支える重要な構成要素です。
- ▶ その空間には歴史があり、複合化した地域の課題があり、人々の活動があり、そして、未来への可能性が広がっています。
- ▶ アーバンデザインでは、地域の歴史や現状を知り、地域の個々の課題を構造化し、地域の複合的な課題として捉えたうえで、未来のまちのイメージについてみんなで話し合い、共有します。そうして、未来を創造するための新たな活動を産みだし、人々のニーズにあった都市空間をデザインすることです。

アーバンデザインセンター（UDC）とは？



アーバンデザインセンターとは

- 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム
- 「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的にまちに応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担う。
- 公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、まちを創造する拠点

(仮称) UDCCBKの目的

- 地域を知り、お互いを知ること
 - 過去の庶民の暮らしの工夫や知恵を再発見すること
 - 地域の現在の状況及び課題を可能な限り把握すること
 - 個別の課題群を構造化し、複合化した課題として認識すること
 - 活動を通じてお互いを知り合うこと
- 未来のまちのイメージを共有すること
 - 中長期的な視点を獲得すること
 - バックカスティングにより将来へのインパクトが大きい課題を明確にすること
 - ステークホルダー間の利害を調整すること
- 新たな活動を創出すること
 - 新たな活動の可能性を見出すこと
 - 未来のまちを創造する萌芽的活動を支援すること
 - 指標等を参照しながら、互いの活動を適宜調整すること

UDCの役割

地域を知り、お互いを知り、みんなで話し合っ、未来のイメージから現在の課題を見つけ、その課題を解決する活動を産みだすことを支援する。

地域を知る
互いを知る

未来の
イメージの
共有

新たな
活動の創出

(学習・交流)
地域を知るためのワークショップやまちあるき
(調査研究)
・各種統計データ等の収集
・市政等の説明、解説、市民意識調査
・課題の抽出・構造化

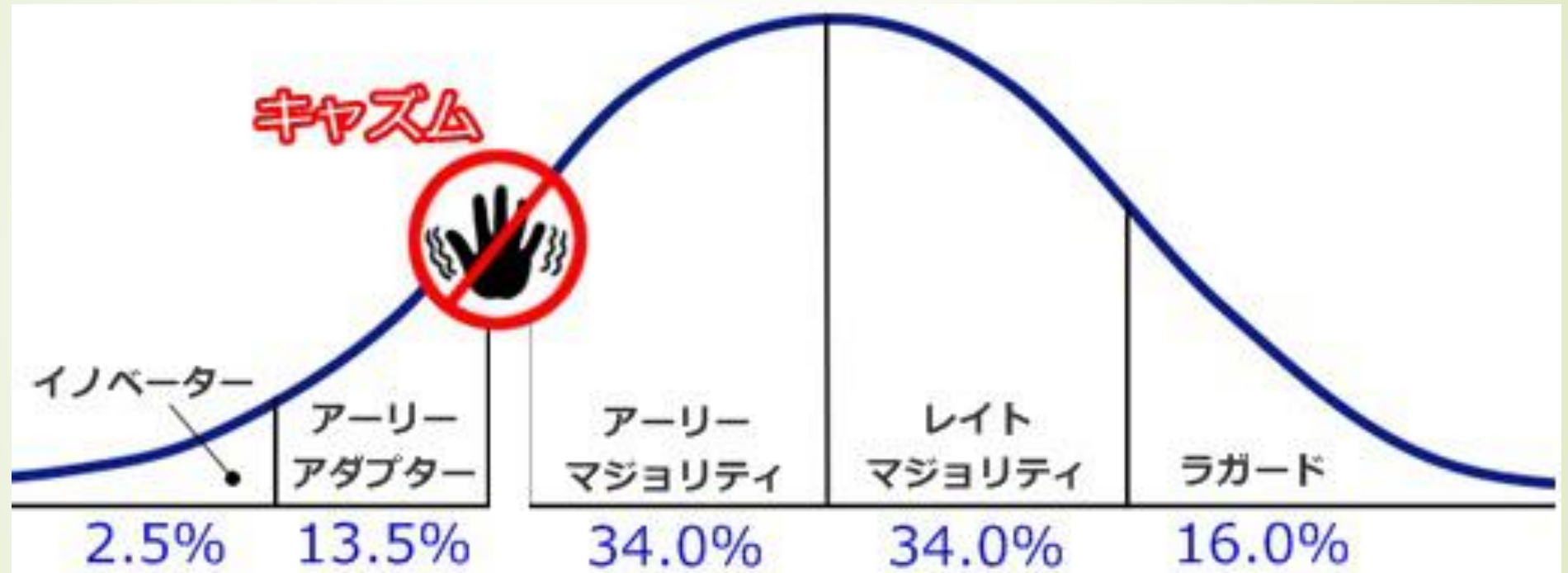
(学習・交流)
・未来のまちを考えるワークショップ
・ワールド・カフェ、シナリオ・ワークショップ、コンセンサス会議 等
(調査研究)
・合意形成プロセスの研究など

(社会実験)
・ワークショップ等の提案を実施
(調査研究)
・市民活動に関する調査研究など

(仮称) UDCBKのターゲット

未来先取

現実対応



マーケティングis.jp

「イノベーター理論とキャズム理論」 <http://marketingis.jp/archives/2365>

アーバンデザインセンター
のターゲット

従来の行政のターゲット

(仮称) UDCBK発展のための三要素

27

居場所・交流

居心地の
いい場所

- ・人通りの多い目立つ場所
- ・カフェのような入りやすく、話しやすい雰囲気
- ・ワークショップなどを気軽に行える機器類の整備

学習・成長

魅力ある
プログラム

- ・市民が本当に語りたい事柄や行いたい活動の支援
- ・市民とともに組み立て、UDCはサポートし、実施する場

調査研究・活動

イメージを
具現化する
社会実験

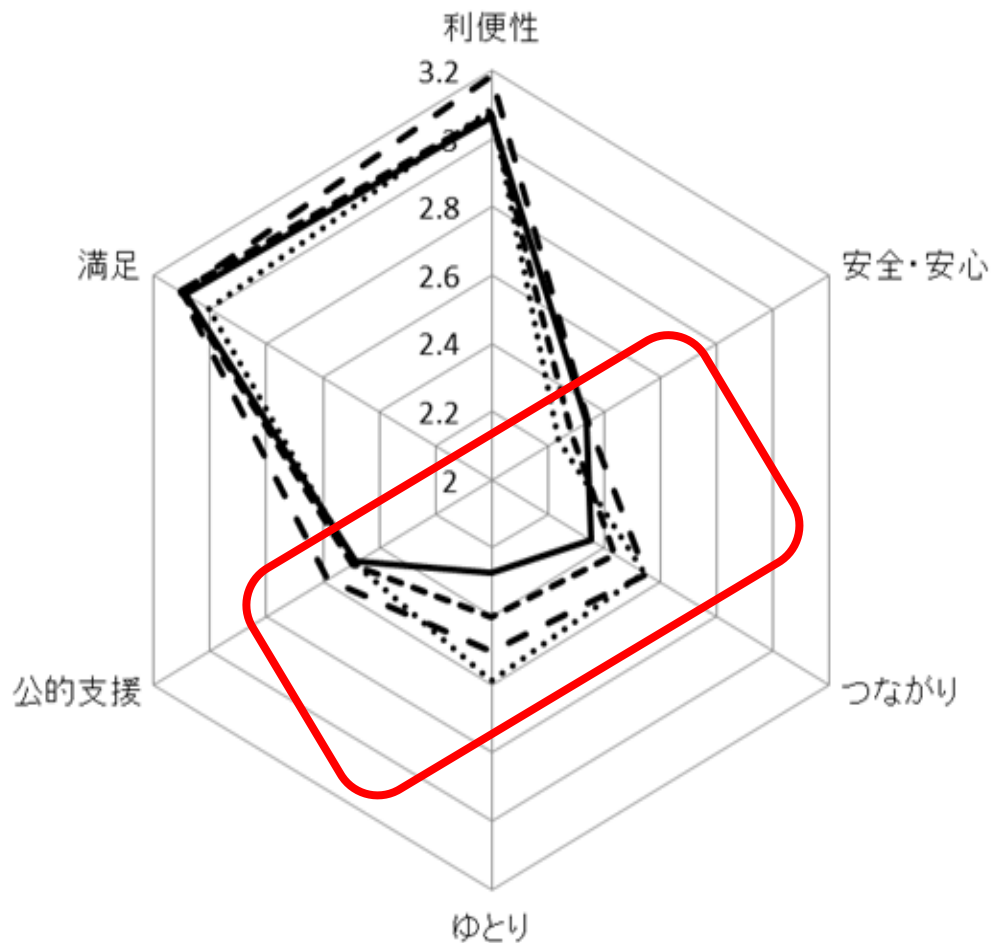
- ・公共的課題を多様な組織や個人が参画して解決への取り組み
- ・地元企業・立地企業等専門的知識を持つ組織の参画
- ・近くに総合大学があり、積極的に参画

(仮称) UDCBKの**効果**

- ▶ 連携・交流の場の提供
 - ▶ 就業・通学者、単身赴任者、下宿生等と居住者との交流の機会創出
 - ▶ 子育て世代および女性の活躍の場の提供
- ▶ 市民主役の萌芽的活動の支援
 - ▶ 市民主役の萌芽的活動を支援（社会実験）し、既存支援活動体に切れ目なく接続
- ▶ まちづくりに関する情報発信
 - ▶ 地域のまちづくりに関連する情報の発信
- ▶ 女性の参画
 - ▶ 政策決定プロセスへの女性の意見、及び参画

UDCが有効に機能するための条件ですが、同時に、これらは草津市の課題でもあります。草津市の課題解決にUDCの活動は重要な貢献を行いますが、UDCを進めていくことが草津市の課題解決にも繋がると考えます。

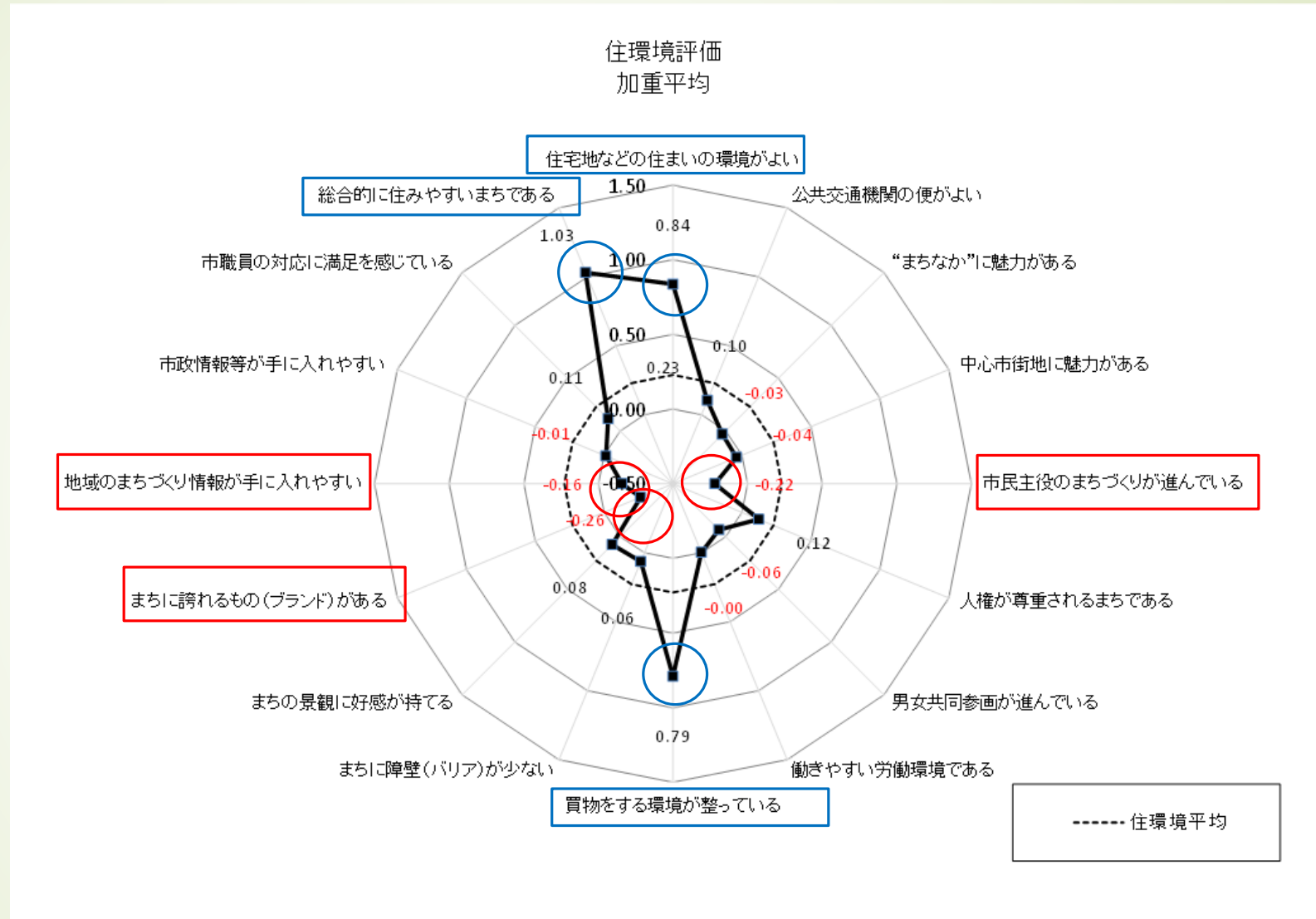
(参考) 各要因(領域)別 「住みやすさ」に対する意識



要因(領域)	要素(項目)	現状に対する評価が高いもの(平均値以上)
利便性	公共交通(バス・電車)の利便性が良い	○
	日常の買い物の利便性が良い	○
安全・安心	犯罪が少ない	
	災害が少ない	
つながり	集える場所がある	
	近所を含むコミュニケーションがある	○
ゆとり	伝統・文化	
	イベント等への参加	
公的施設	医療施設が充実	○
	高齢者施設が充実	
	子育て関係施設や教育が充実	

出所: 草津未来研究所作成

* 「満足」はアンケートによる全体的な草津市の住みよさの満足度



全体の流れ

(仮称) UDCBK開設について

4

(仮称) UDCBKの体制について

16

(仮称) UDCBKの概要について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(仮称) UDCBKの今後の予定について

50

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

54

(仮称) UDCBKの機能 (案)

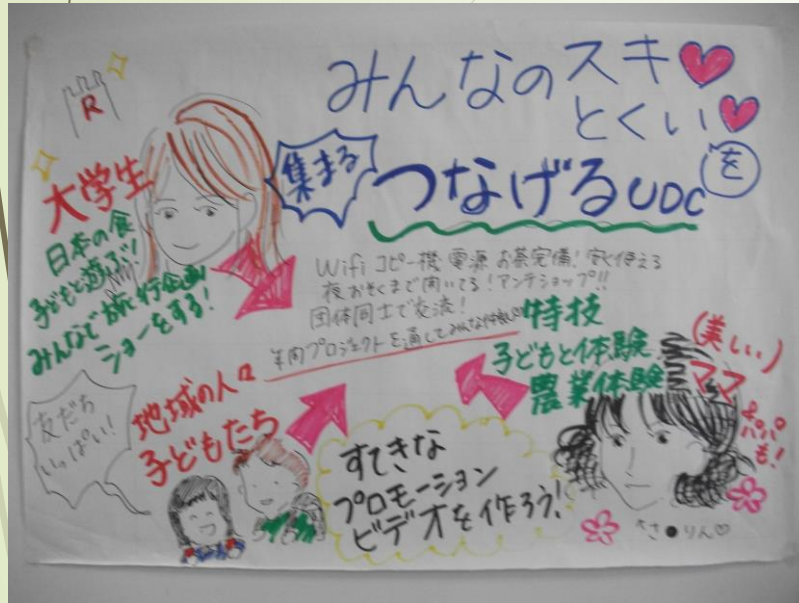
32

機 能	内 容
学習・交流	学習・交流の場の創出 公民学連携のきっかけづくり
調査研究	アーバンデザイン等草津、特に南草津の未来のまち づくりに関する調査研究
社会実験	未来のイメージを具現化する社会実験の実施
情報発信	F M局やS N S等を活用した情報発信

(仮称) UDCCBK運営ワークショップ

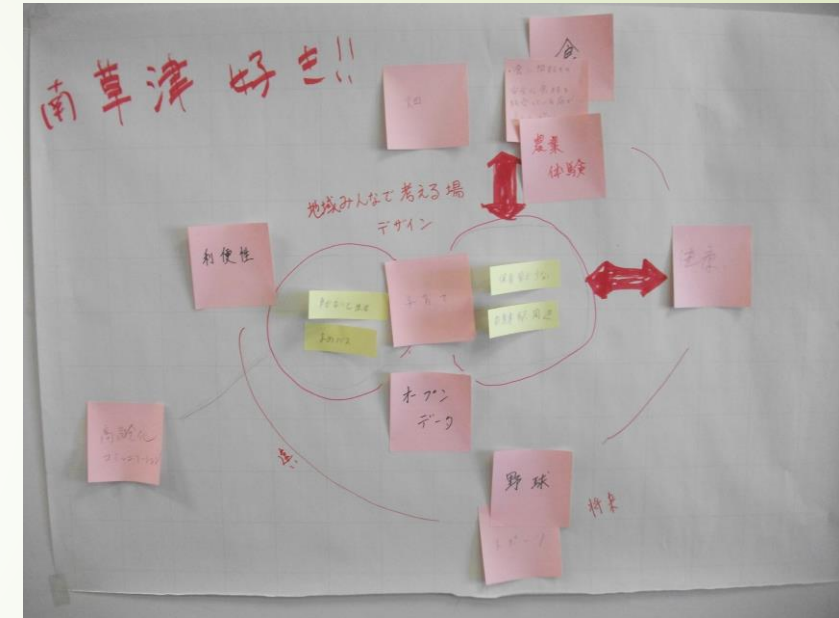
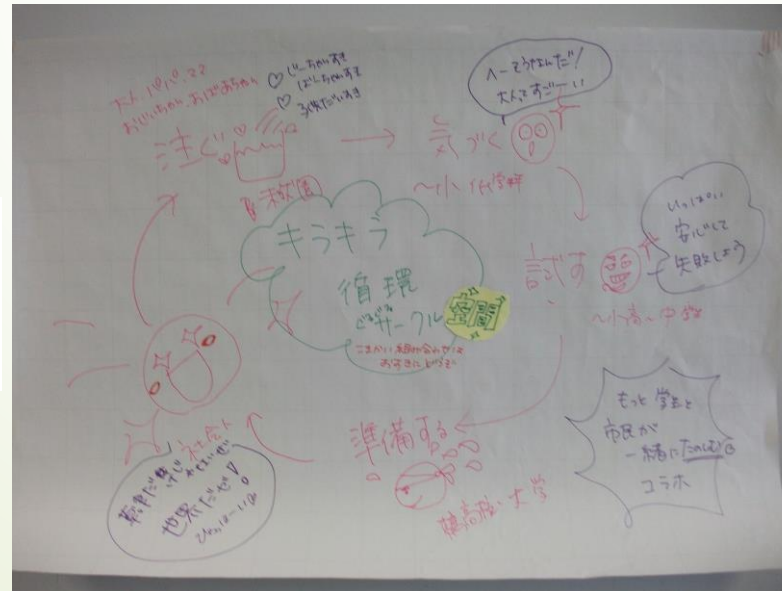
- ▶ (仮称) UDCCBKの紹介と(仮称) UDCCBKの利用を希望する市民を対象にアーバンデザインセンターの実施事業プログラム、機能、利用ルール等について意見をいただくワークショップを開催する。なお、検討した利用ルール等を参考に運営委員会にて決定する。
- ▶ 開設(7月から9月)までの間で曜日・時間を変え、同内容を4回実施する。

(参考) 第6回未来創造セミナーWS (1)



(1) 地域の人材マッチング機能
みんなの好き・得意を組み合わせ
夢を実現する仕組み

(2) 多世代交流機能
ライフステージにあった居場所の
提供



(3) 地域みんなで (草津の未来を)
考える場づくり

学習・交流（案）

	機能	内容	回数
アーバンデザイン スクール	学習	（仮称）UDCBKの運営を担う人材の育成を目的に、UDC運営に必要な知識等の取得	4回
未来創造セミナー	交流	多様な人々の交流を目的に草津の歴史や草津に住む人々のライフストーリー等を語ってもらう場	4～6
	連携	産学公民連携により、草津の未来のイメージを具現化するアイデアを纏め、社会実験等に接続	4～6
その他イベント	交流・ 学習	環境月間や児童虐待月間等オープンスペースの展示に合わせたセミナーや防災おにぎりデー等	4～6

合計 20回予定

アーバンデザインスクール（学習）

■ アーバンデザインスクール

■ 目的

- （仮称）UDCBKの運営を担う人材の育成を目的に、UDC運営に必要な知識等を取得する。

■ 対象者

- （仮称）UDCBKの運営に意欲と関心を持つ方

■ 人数

- 15人程度

■ 回数

- 半期4～5回を1クールとし、年2回実施する（今年度は1回）

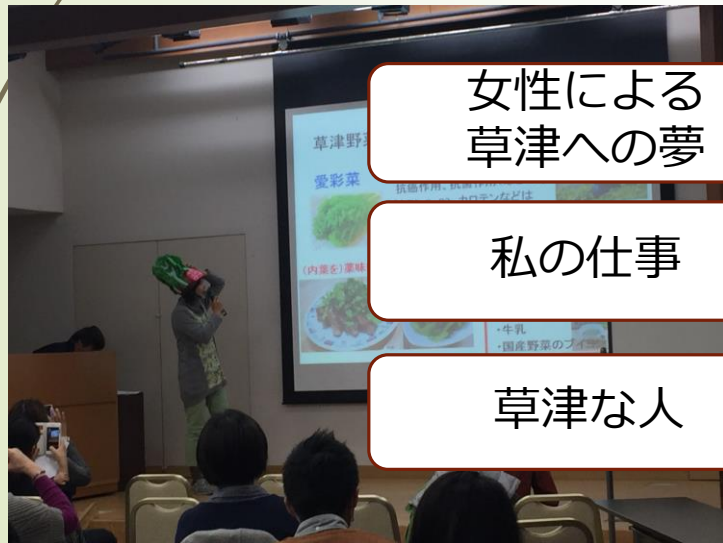
■ テーマ

- 「アーバンデザイン」「食と農」「健康」「子育て」「産業振興」

未来創造セミナー（交流）

▶ 未来創造セミナー（交流中心）

- ▶ 目的 草津には、昔からずっと住んでいる人、就職や結婚、出産や進学、海外からの人、またはリタイヤ等を機に他から草津に移ってきた人、通勤・通学や社会活動などで草津に通う人などいろいろな人が集っています。そのような人たちが自らの人生（ライフ・ストーリー）を語り、そして草津の現在、未来への思いを知り合い、参加者がお互いを理解しあう交流の場を提供します。
- ▶ 対象者 草津に関心のある人々
- ▶ 人数 100人程度（テーマにより可変）
- ▶ 回数 月1回（10月から6回）



女性による
草津への夢

草津市在住・在勤の女性に草津への夢を語っていただく。

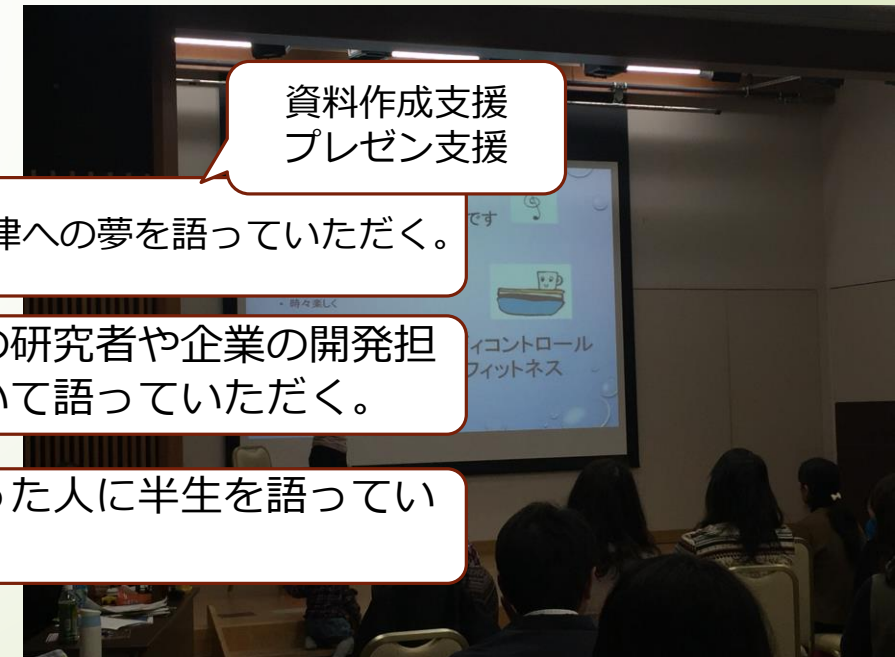
私の仕事

草津市在勤の人々（大学の研究者や企業の開発担当等）に自分の仕事について語っていただく。

草津な人

草津で生まれ、草津で育った人に半生を語っていただく。

資料作成支援
プレゼン支援



未来創造セミナー（連携）

- ▶ 未来創造セミナー（連携中心）
 - ▶ 目的 それぞれが語った未来のイメージを実現するために公民学が知恵を出し合い、草津の未来のイメージを具現化するアイデアを纏め、企画を立案、実現に向けて社会実験の実施や既存の団体等に切れ目なく接続します。
 - ▶ 対象者 草津に関心のある人々
 - ▶ 人数 30人程度
 - ▶ 回数
 - ▶ 2ヶ月に1回程度（6回）

(参考) 平成28年度第1回未来創造セミナー

目指せ、世界一！

草津に

世界中の視線集めたいよね！

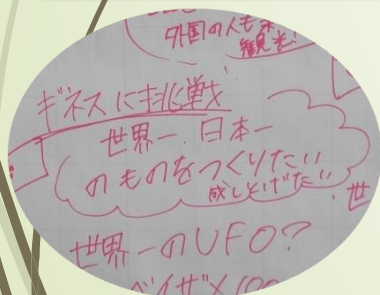
草津から

愛と夢いっぱいふりまきたいよね！

日時 平成28年6月4日 土 18:15-20:45

場所 市民交流プラザ 大会議室

草津市野路一丁目15番5号（フェリエ南草津5階）



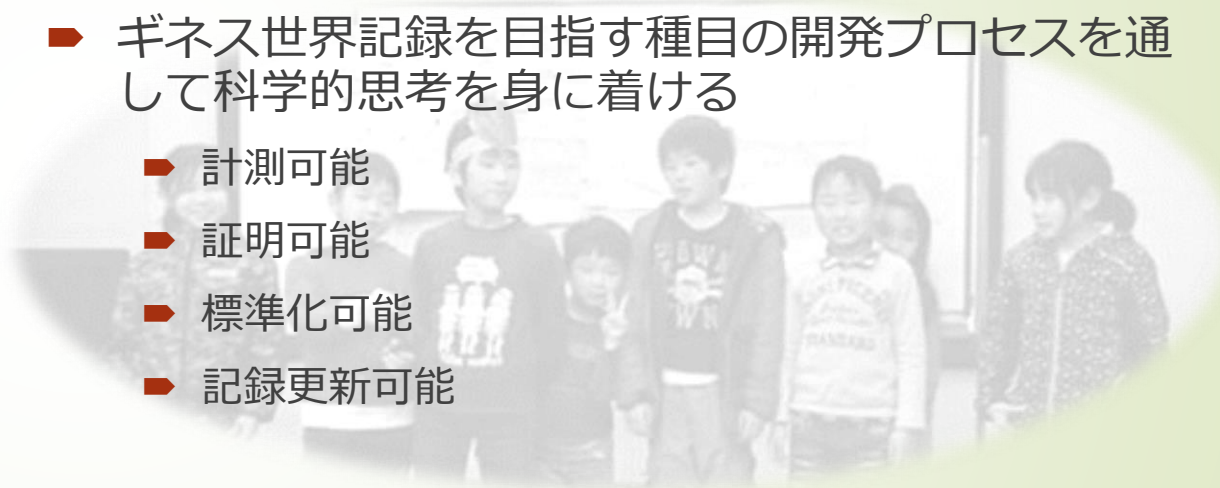
昨年度実施した第6回の未来創造セミナーでは、子どもたちから「ギネスに挑戦 世界一日本一のものをつくりたい!! 成し遂げたい!!」という提案がありました。2年前に「宝塚1万人のラインダンス」でギネス世界一を達成した宝塚市でも子どもの提案から始まりました。宝塚市ができたことがこの草津市にできないはずはありません。いや、むしろもっとすごいことができるはずです！

みんなで世界一を目指し、世界中の視線を草津に集め、そして草津から愛と夢をいっぱいふりまきましょう！

- 子どもたちの夢の実現するため、市民、企業、大学等が連携する場をつくる
- ギネス世界記録を目指す種目の開発プロセスを通して科学的思考を身に着ける

- 計測可能
- 証明可能
- 標準化可能
- 記録更新可能

- 未来創造セミナーでは種目を検討するまでであり、それ以降はシームレスに実行団体に繋げる。



調査研究（案）

- UDC構成団体による自由な調査研究
- UDCをリサーチ拠点として活用
- 検討結果等について市民と意見交換

- オープンデータ利活用手法の調査研究
 - 市所有情報のオープンデータ化に呼応し、オープンデータをまちづくりに活かすための手法を検討
 - アイデアソン、ハッカソンの実施
 - スマートデバイスを利用した地域情報の収集手法の検討
- 空きワンルームマンションの利活用案の検討
 - 空きワンルームマンションの実態調査
 - 空きワンルームマンションの利活用案の検討
- 都市デザインスタジオ
 - 学生の自由な発想のもと、未来の草津の都市デザインについて調査研究

(参考) 第6回未来創造セミナーWS (2)

▶ ワンルームマンションの利活用

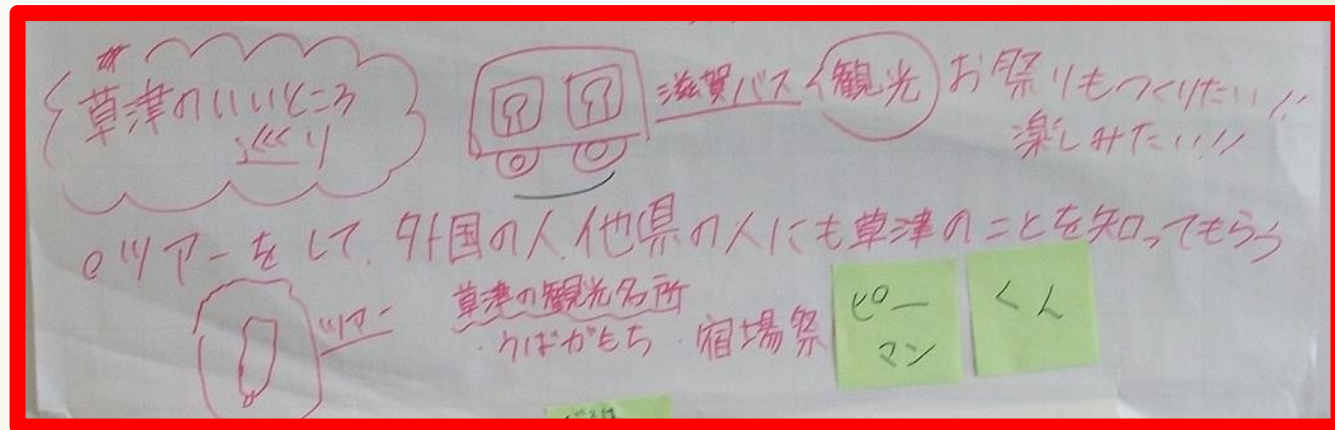


社会実験推進事業

- 包括協定締結大学を対象とした「アーバンデザイン」「食と農」「健康」「子育て」「産業振興」をテーマにした社会実験の委託事業
 - 5事業の実施予定（一件あたり40～50万円を想定）
 - 1大学1事業を原則とする
 - テーマについては市からリストを提示し、協議の上、決定する。
 - 平成28年度は10月からの6か月とする。
- 委託条件
 - UDCを活用した社会実験とすること
 - 市民、または市民グループと協働すること
 - 中間報告、最終報告の2回、市民を対象とした報告会を開催すること

(参考) 第6回未来創造セミナーWS (3)

- ▶ 「草津のいいところ巡り」
 - ▶ 子どもや他県出身学生や留学生等の視点を組み入れた「草津いいところ巡り」の開発



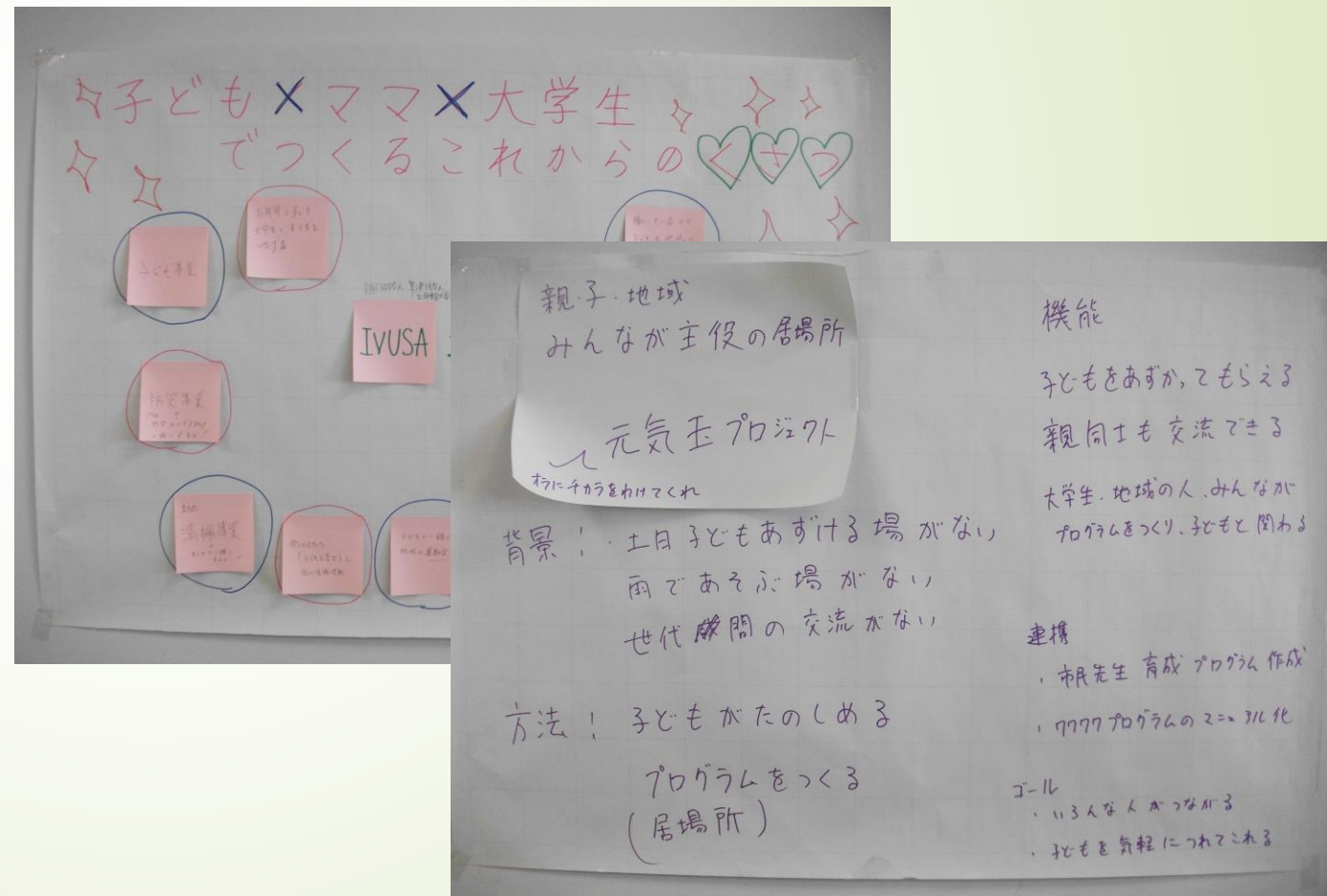
(参考) 第6回未来創造セミナーWS (4)

▶ 子どもプロジェクト：子どもと大学生と大人のためのプログラム

▶ 例えば、宝塚市子ども委員会等の試み

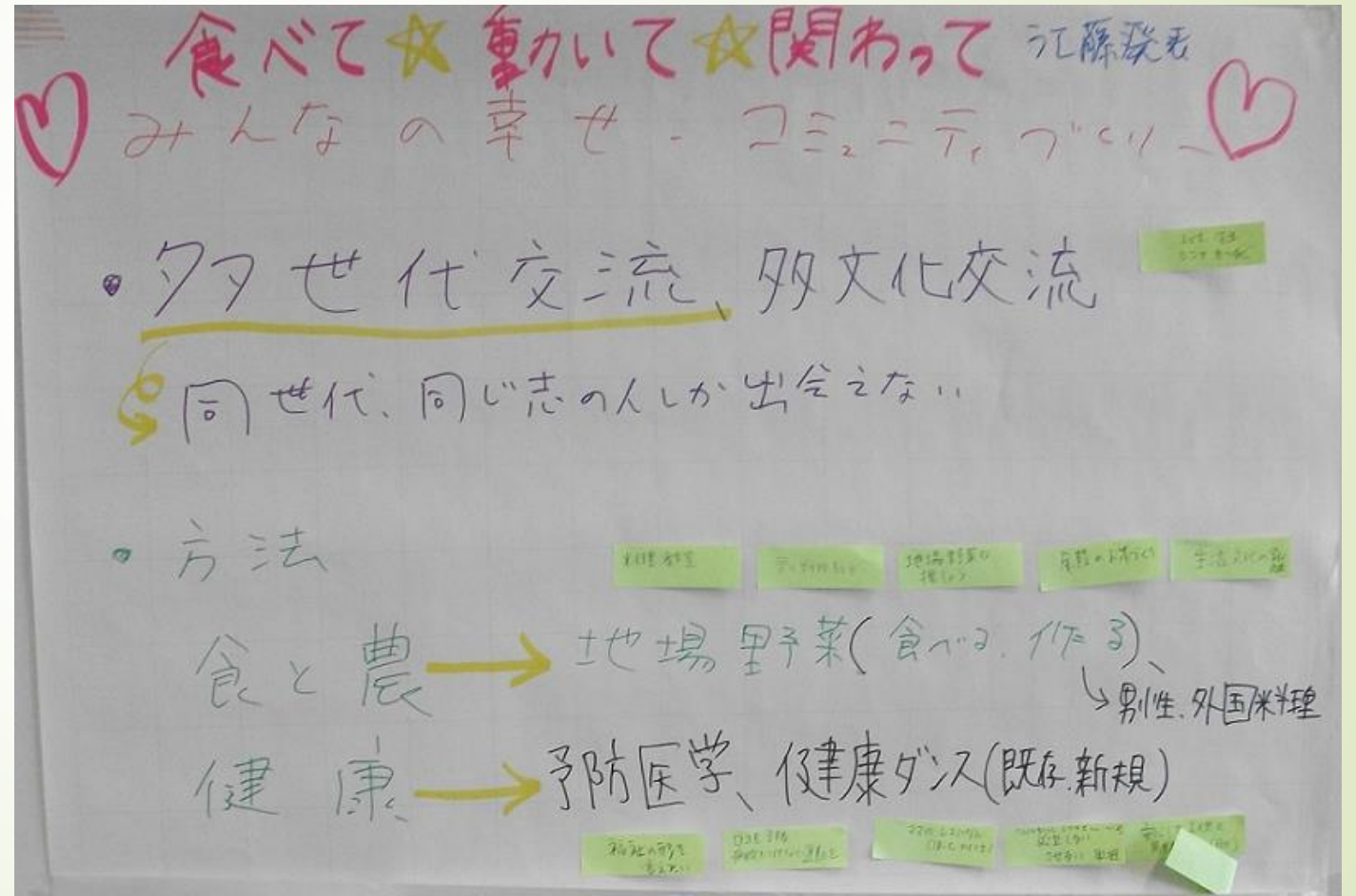
子どもたちがいきいきと暮らし、笑顔にあふれるまちをつくるには、子どもたちの思いや発想が必要です。子どもたちの意見を未来の宝塚のまちづくりに生かすために、子ども委員会を設置

市内在住・市内の学校在学の小学5年生から高校3年の子どもがチームを組み、半年間に市内外の視察やワークショップ等を重ね、提言を発表する。



(参考) 第6回未来創造セミナーWS (5)

- ▶ 食べて、動いて、関わって
(第5回未来創造セミナーのテーマ)



その他イベント

- 草津市立南図書館が隣接する立地を活かしたプログラム開発
 - ビブリオバトル
 - マイクロライブラリー
 - 読み聞かせ
- 他部署が行う様々な政策月間に合わせたイベント
 - 児童虐待月間（男女共同参画室）のパネル展示に連動したイベントの実施
 - 毎月17日の防災おにぎりデー（危機管理課）に合わせたイベントの実施
- 構成団体、および協力団体との共催等
 - 防災
 - 子育て
 - 多文化共生

構成団体等の独自プログラム（案）

- ▶ 大学の独自プログラム
 - ▶ UDCの理念に合致した市民を対象とした大学主催イベント
 - ▶ UDCの理念に合致した学生団体によるイベント

- ▶ 企業の独自プログラム
 - ▶ UDCの理念に合致した新商品・サービス等のモニター調査
 - ▶ UDCの理念に合致した市民を対象とした各種イベント

- ▶ 市民団体等構成団体のプログラム
 - ▶ 防災
 - ▶ 子育て
 - ▶ 多文化共生

情報発信（案）

- ▶ Facebook、Twitter等ソーシャルメディアの活用
- ▶ えふえむ草津との連携検討



71% 4G 71% 9:06

← 草津市役所さんの投稿の写... 🔍

草津市役所さんが写真3件を追加しました
草津市
2015年12月16日 13:25

第5回未来創造セミナーのご案内

こんにちは、草津未来研究所です。

さて、今年から始まった未来創造セミナーも5回目を迎えます。
5回目は「健康」をテーマに行います。
タイトルは

くさつジェンヌは、「動いて、食べて、美しく」
～健康は動・食・美の結晶（クリスタル）！～

立命館大学スポーツ健康科学部の岡本先生に健康維持、増進のための動・食・美についてお話をお伺いします。
そのあと、市内で活動するおふたりのくさつジェンヌの健康の秘訣をお伺いします。
1人目のくさつジェンヌ大塚佐緒里さんには、「たべものから始まるからだづくり たべものが繋（つな）いだ仲間たち」と題してお話いただきます。大塚さんは食へのこだわりから、草津野菜の育て方や料理方法などに興味を持ち、市内を動き回り、体験農業で体を動かし、家庭菜園を始めたり、草津野菜を極める中でいろいろな人たちと巡り合うことによって「動い

コメントする... 😊

全体の流れ

(仮称) UDCBK開設について

4

(仮称) UDCBKの体制について

16

(仮称) UDCBKの概要について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(仮称) UDCBKの今後の予定について

50

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

54

今後の予定

	6	7	8	9	10	11
行事					4日 記者会見 15日 開設イベント 15日 広報誌掲載	
運営WS		○	○	○ ○		
社会実験	5大学と協議し社会実験のテーマを決定				社会実験の実施（半年間）	
未来創造 セミナー	6/4	○	○	○	毎月1回実施（計20回）	
工事	内装検討	調達			内装工事	

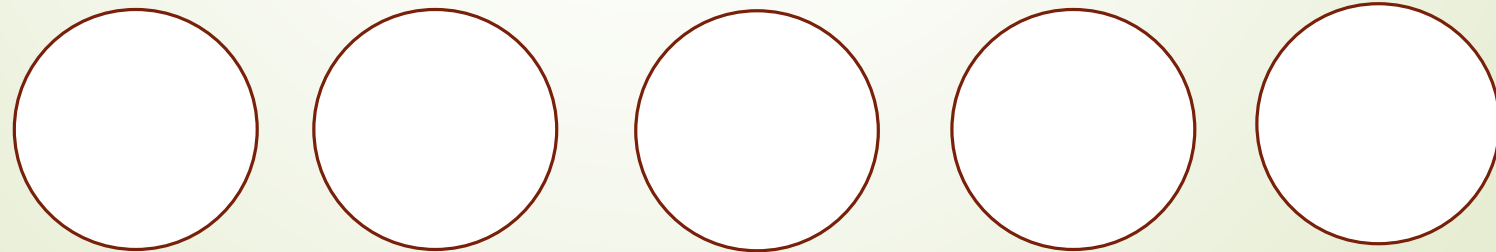
オープニング・イベントの検討

- ▶ 10月15日（土曜） 午前10時から12時を予定
- ▶ 市民交流プラザ 大会議室
- ▶ 内容
 - ▶ 草津歌劇団、または市民コーラスグループによるパフォーマンス
 - ▶ 市長と（仮称）UDCBK運営協議会委員長の挨拶
 - ▶ パネルディスカッション
 - ▶ （仮称）UDCBKに期待すること
 - ▶ コーディネーター 肥塚 浩 草津未来研究所顧問
 - ▶ パネリスト
他UDC関係者、UDCBKセンター長、滋賀銀行、草津市等

愛称の検討

- ▶ アーバンデザインセンターを名乗る意義
 - ▶ 全国に展開するアーバンデザインセンターのひとつであることが明確
 - ▶ アーバンデザインセンター・ネットワーク加盟による他UDCとの交流
- ▶ 愛称をつける意義
 - ▶ 草津のUDCの場合、アーバンデザインを念頭に置きながらも、サードプレイス機能も重要な機能として位置づけている。その他、子育て、食と農、スポーツ健康など
- ▶ (仮称) UDCBK運営ワークショップ等の意見を参考に本懇話会で決定

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ



全体の流れ

(仮称) UDCBK開設について

4

(仮称) UDCBKの体制について

16

(仮称) UDCBKの概要について

23

(仮称) UDCBK実施プログラムについて

32

(仮称) UDCBKの今後の予定について

50

(参考) 平成27年度未来創造セミナー実績

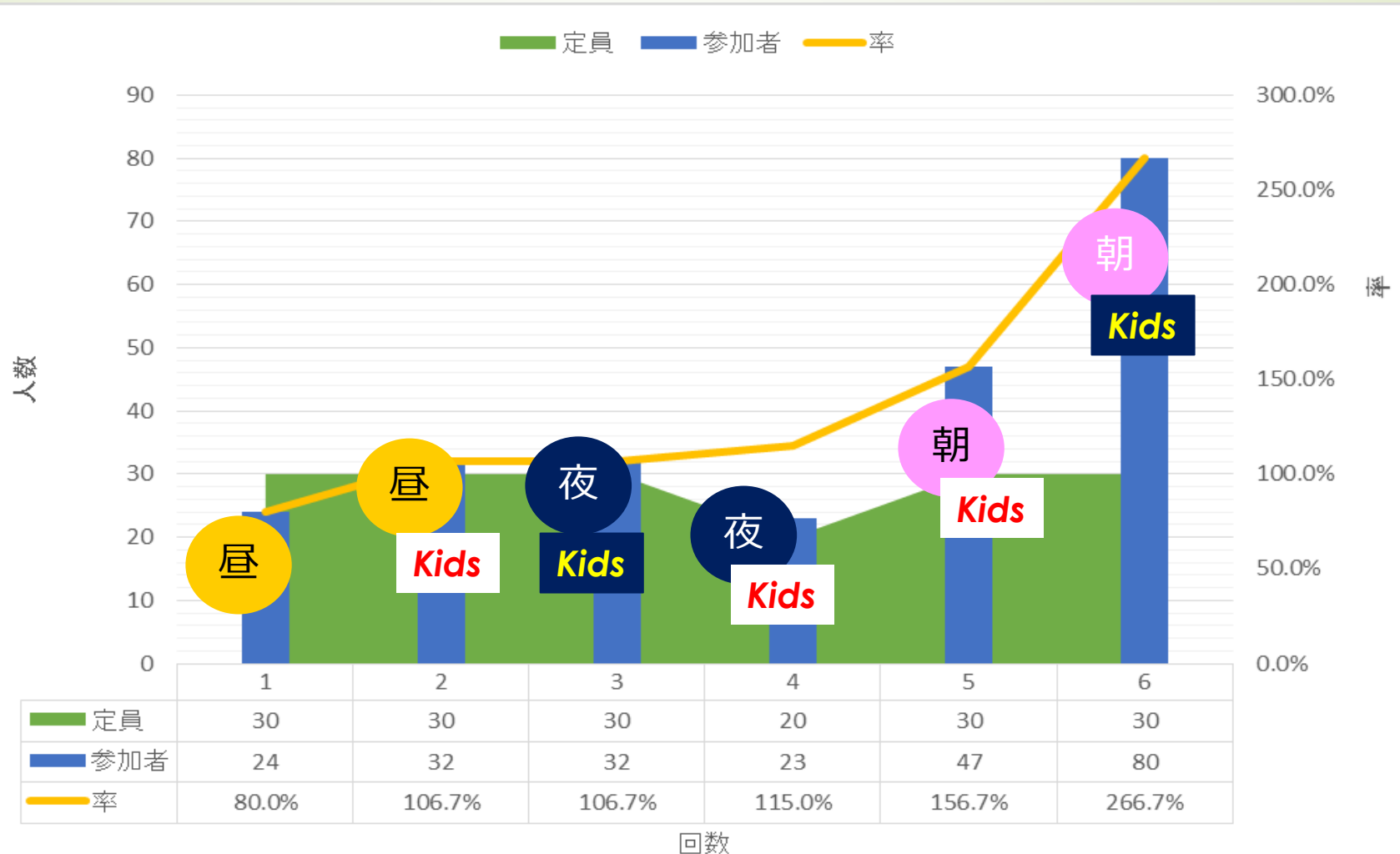
54

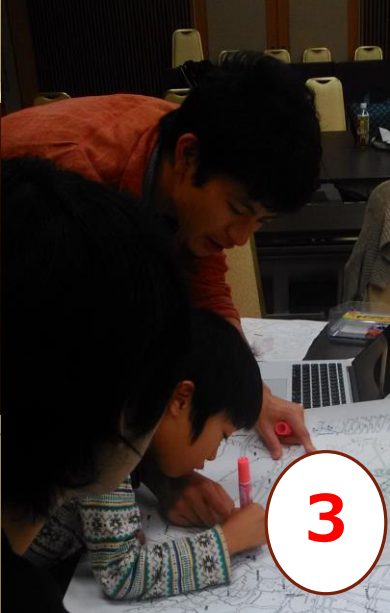
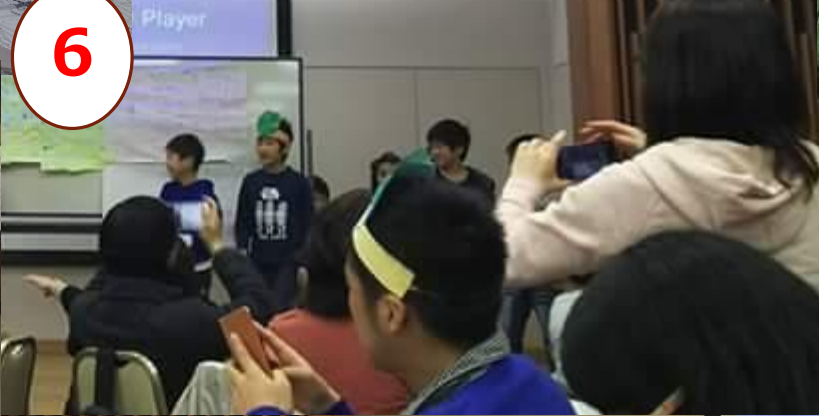
未来創造セミナー開催の目的

- ▶ 気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造される「場」
 - ▶ 地域をベースに市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」
- を検討するため、南草津駅前の市民交流プラザにて「未来創造セミナー」を開催する。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
テーマ	理想とする女性の働き方	子育てしやすいまち	アーバンデザイン (散歩道)	文化	動・食・美	大学地域連携
庁内連携部署	男女共同参画室	子ども・子育て推進室	都市計画課	未来研究所	未来研究所	未来研究所
専門家	二宮周平 (立命館大学) 京樂真帆子 (滋賀県立大学)	小沢道紀 (立命館大学)	武田史朗 (立命館大学)	木下達文 (京都橘大学)	岡本直輝 (立命館大学)	肥塚浩 (立命館大学)
開催日時	平成27年 7月30日 14:00～16:30	平成27年 8月25日 14:00～16:30	平成27年 11月5日 18:00～20:00	平成27年 12月3日 18:15～20:15	平成28年 1月26日 10:00～12:00	平成28年 3月26日 10:00～12:00
子ども	×	○	○	○	○	○
場所	市民交流プラザ（南草津駅前）					

未来創造セミナー参加実績

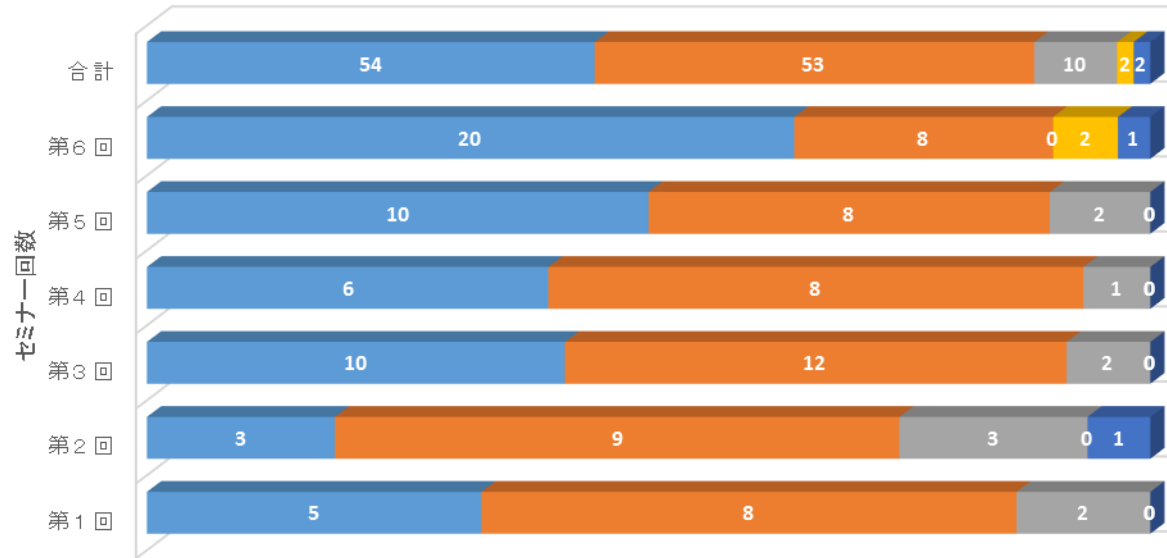




アンケート集計結果

運営等全般

■非常に有意義 ■有意義 ■まあまあ ■物足りない ■非常に物足りない



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
■非常に有意義	5	3	10	6	10	20	54
■有意義	8	9	12	8	8	8	53
■まあまあ	2	3	2	1	2	0	10
■物足りない	0	0	0	0	0	2	2
■非常に物足りない	0	1	0	0	0	1	2

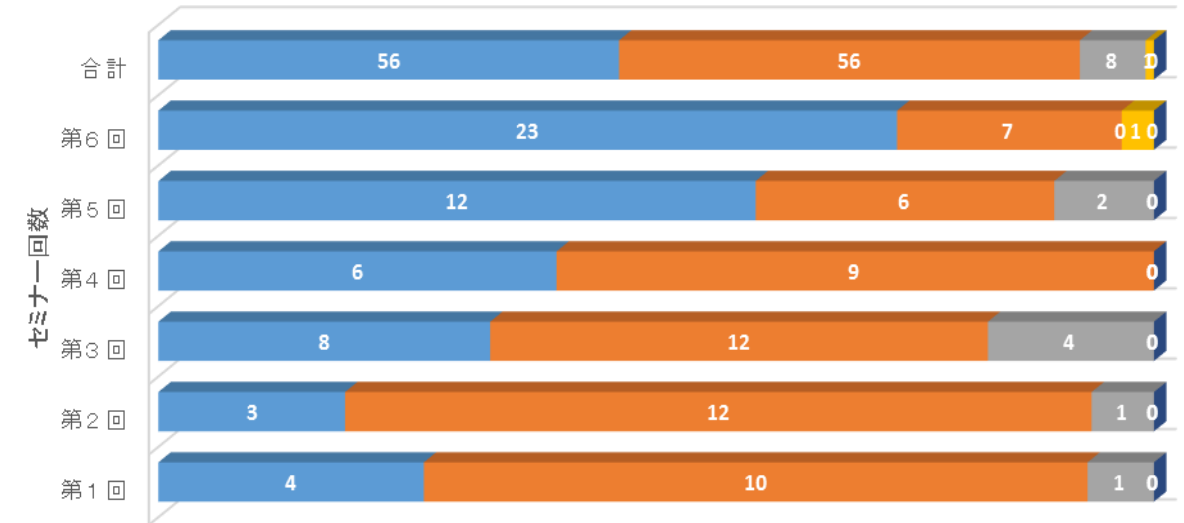
回答数

時間が短い

時間が短い

セミナーの内容

■非常に有意義 ■有意義 ■まあまあ ■物足りない ■非常に物足りない



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
■非常に有意義	4	3	8	6	12	23	56
■有意義	10	12	12	9	6	7	56
■まあまあ	1	1	4	0	2	0	8
■物足りない	0	0	0	0	0	1	1
■非常に物足りない	0	0	0	0	0	0	0

回答数

セミナー参加者の主な意見

- 気軽に話せる雰囲気だったので話しやすかったです。話が盛り上がってワクワクしました。次につながるというなあと思います。
- こうやって行政の方、大学の方、市民がざっくばらんに話せる機会がもてていることがそもそも素晴らしい。
- 問題意識を持たないで来ましたが、色々と考える機会になりました。こういう所から未来創造というものがあるのかなと思いました。
- 長く住んでいる方、昔住んでた方、お子さんのいらっしゃる方など自分とは違う目線の色んな意見が聞けたため。
- 再就職するだけが社会復帰ではない。まちづくりに参加することも社会復帰であることがわかった。
- 託児付き？で子供が泣きながらも運営できるところがすばらしかった。時間も2hでちょうど良いと感じました。

セミナー参加者アンケートからの課題

- いつも同じ顔ふれになりがちなので、ぜひ話したいのにこのような場所を知らない人、知っているけれど一歩踏み出せないでいる人、楽しそうに議論している様子を見てテーマに関心を持つかも知れない人など**いろいろな人が気軽に参加できるように**考えてほしい。
- 私のいたテーブルは当たり(?)だったようで、とても楽しい有意義な時間を過ごせましたが、お友達のいたテーブルは、終始雑談で何だかなあ...。と思ったようです。同じセミナーにせっかく参加したのだから、**できるだけみんなが楽しくすごせた方が良かったのになあ...**。と思います。(私は、よくセミナーに行くけど、友達は初めてです。)初めて来た人にこそ、楽しいやん。また来てもいいな。と思ってもらった方がよいのでは? 様子みて、席かえとか、あっても良かったのかな? と思いましたが、どうでしょう。初参加の人に、雑談では、次来ないよ。(原文ママ)
- もっと多くの人に参加してもらいたい。**自分を発見し、地域を発見する。その繰り返しをしていくことでより深くなるのだと思う。なぜ、なぜ、なぜをくり返す。**草津の根っこを発見し、もっとしっかり根をはる事をしていくこと、**コミュニケーションをもっと取ってお互いの理解を深めたい。**
- **意見をぜひ実現**しましょう
- **継続的に同じテーマ**でやったほうがいい

未来創造セミナーで明らかになった 連携拠点設立に向けた課題

■ 多様性

- テーマ等によって参加者が一定の層に偏在する可能性あり、次の層が参加しやすい環境づくりが必要
 - 伝えたい情報や知りたい情報があるにもかかわらず、参加の障壁が高い層
 - 問題を知らないゆえに無関心なままの層
 - 直接関係がないが、間接的に関係する問題に取り組む層
 - 地域で活躍の場を求めている幅広い知識や経験を持つ学生、社会人、リタイア層

■ 専門性

- ファシリテータ等場の運営のノウハウを持つ人材
- 様々な分野の専門知識を持つ人々の参加による状況的学習機会を提供
 - 専門的な知識を持つ学識者や企業関係者、行政職員、NPO等の参加

■ 実行性

- 問題解決に向けて実際に活動する取り組みへの支援が必要

連携拠点づくりのまとめ

- 市の単独事業による連携拠点の限界
 - 市が課題をあげ、都度地元の大学の専門家を招き、ワークショップを開催
 - その後は所管課が継続を判断

常に開かれた
専門家が常駐する

市が決めるのではなく、
市民が提起した
テーマについて

気軽に自由に議論や話ができる空間
常に新しい出会いが創造
市民と行政、企業、大学等が連携

→ 色々な人が参加

連携拠点の仕組みとして
アーバンデザインセンターが有効

組織として
の参画